

# 末黒野

すぐろの

7月号 (通巻779号)



# 彼岸寒

小川玉泉

金色の千木の眩しく竹の秋  
携帯の告ぐる余震や彼岸寒  
余震なほ九段の花の咲き初むに  
戸を繰るや間髪入れず匂鳥

一齊にとはこのことや花開く  
投票へ行くにも杖を花曇  
花三分夜半の激震嘘のやう  
朝 駆 は 二 た 昔 前 花 堤  
句会終ふ花暮れのこる川堤  
新築のビルを背負へり花の山  
三步とはあらぬせせらぎ柳鮓  
満開のさくらと競ひけやき萌ゆ

# 惜春賦

松本三千夫

モンブランのブルーのインク春の宵

風なきにひとひら散るも花万朶

四月十日 河合一雄詩兄七回忌

鎌倉は春歌の橋華の橋

近道の最後は坂や諸葛菜

昼を鳴く三浦城址の蛙かな

春落葉踏むや応ふる山の風

練兵場跡のグランド花水木

稲荷社の狐千体花蘇枋

あたたかや社務所に並ぶ守り札

湖よりも勿忘草や紺ふかく

行く春や竹の葉擦れの音乾き

春惜しむ背山妹山雨募り

# 甲矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）

## 瀬戸田

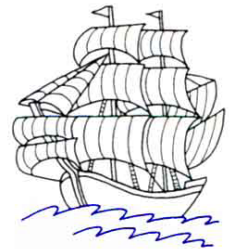
黒滝志麻子

向かう岸見ゆる渡船やつばくらめ  
動き出しさうな島々風光る  
空よりも海の青さやうららかに  
初桜島三つ寄る瀬戸田町  
欄に白蝶憩ふ耕三こうさん寺じ  
春蘭や日の斑明るき寺の径  
亀鳴ける夕べ旅情を深うせり  
満ち足りし桜の下の不安かな  
花畑に海光あふれ島の春  
林立の島の起重機夕朧

## 花

田中臥石

草萌ゆる浜や津波の後始末  
みちのくの姉逝き彼岸籠り居る  
余震なほ続く春暁海の音  
鐘一打磴ゆるやかに花の雲  
輪塔へ枝垂桜の影移り  
花仰ぎ心の鬱を忘じけり  
花の雲風の池畔をたもとほる  
心身の震ふ日夜や沈丁花  
余震来て舞ふごと脱げり花衣  
蟹の家の降らんばかりや雪柳



# 乙矢集

配列は音順（当月巻頭作家は  
次号は末尾になり以下同じ）  
太字は推薦句

苗木売る 小倉正穂

野に山に色をふやして春の雨  
散る花のしばし虜に昼深む  
よろこびに哀しみにつけ桜かな  
師は天にかたくりの花ひとり見る  
苗木売る一つの蕾目玉とし  
花冷えや所在なき膝もて余す  
一村をすつぽり包み花りんご

夕霞

乙坂きみ子

菜の花や波静かなる海展け  
松風の渚にたたむ春日傘  
長閑さや人来て出づる渡し舟  
門前に月番の札桃の花  
繋がれし牛と目の合ひ夕霞  
しなやかに闇を抱き込む雪柳  
ふるさとに一夜を泊り遠蛙



朝 桜 加藤静江

芽柳や風に光を散らしをり  
花びらを文結ふ形に花辛夷  
民宿の朝の香や木の芽和  
涅槃会や全き月の輝きて  
万葉の襲の色や若楓  
日当りて目覚むるさまに朝桜  
花万朶止む気配なき揺り返し

鳥 雲 に 菅野日出子

被災地の友の安否や朧月  
花萼や地震に崩れし石畳  
霾や多摩丘陵の古墳群  
聳え立つ多摩の教会鳥雲に  
喘ぎ来て彦根の城の花いまだ  
山顛に一ト本ともしり山桜  
春暁や湖の釣舟影絵めき

花の空 菅野蒔子

励しの電話に涙あたたかし  
へリコプター梅咲く朝被災地へ  
春の月壊れし町をへだてなく  
連翹や記憶の糸は炉煙舎へ  
乙女椿思ひを七重八重に秘め  
耕せる土に音なく滲むる雨  
復興の槌音花の空へかな

猿 島 城戸 緑

猿島は鳶の輪の中かげろへり  
降り立ちて要塞跡へ青き踏む  
木々芽吹く樹間に仰ぐ白き富士  
木の芽風波の穂尖る上に安房  
流れ藻や春日巻きこむ潮だまり  
桜東風潮の忘れし貝拾ふ  
走り根や砲台跡の榛の花

# 万 仞 集

花 の 冷 え 積 ま れ て 匂 ふ 檜 材	湖 の 霞 に 吸 は れ ハ ー モ ニ カ	嘯 に 足 を 止 む る も 縁 か な	市 歌 洩 る る 丘 の 学 舎 花 明 か り	摘 む ほ ど に 現 れ て 来 る つ く づ く し	夕 日 影 楠 の 若 芽 の 紅 映 ゆ る	震 災 に 停 電 更 に 雪 降 れ り	春 の 雲 影 ゆ つ た り と 千 枚 田	日 に ま み れ 土 の に ほ ひ の 蓬 摘 む	手 紙 書 く 肩 に イ ン コ や あ た た か し
菊 池 善 江	太 田 良 一	新 堀 満 寿 美	竹 内 涼 子	渡 辺 崖 花	木 下 晃	千 葉 恵 美 子	浅 川 幸 代	原 和 三	戸 田 澄 子



春めくと妻を誘ひぬ森の道	柚木澄
春の雹降るや天変地異の昼	鈴木礼子
鶯の頻りを墓の夫とかな	杉本裕子
渡良瀬の葦焼く炎奔りけり	竹村清繁
横浜に巨船来てをり花の昼	内藤庫江
下りきり花のトンネル見返りぬ	清水和子
小雀や笑顔に見ゆる鬼瓦	辻井ミナミ
撫で牛やしだるる梅の香の仄か	岡野里子
昼月に触るるばかりや紫木蓮	小林一榮
犬ふぐり巨人の靴に踏まれけり	福田志津

# 巨林抄

鴨 引 き て 水 面 平 ら に な り に け り	藁 や 一 男 一 女 孫 四 人	繩 電 車 と ぐ ろ 巻 き ぬ る 春 の 昼	咲 く を 愛 で 散 る を 風 情 と 桜 か な	無 器 用 に 生 き ほ ろ 苦 き 目 刺 焼 く	施 錠 し て 又 た し か む る 朧 の 夜	げ ん げ 田 に ぽ っ か り 浮 か ぶ 無 人 駅	在 の 子 も 訛 り 少 な し 葱 坊 主	わ が 家 に も 一 花 波 郷 の 恋 椿	醉 ひ ふ か し 杜 甫 の 絶 句 に 春 惜 し み	人 声 も 荷 を 積 む 船 も 朧 か な	春 愁 や 故 無 く 返 す 砂 時 計
村 田 慶 子	丸 山 治 男	細 島 孝 子	山 崎 幸 夫	清 水 元 子	倉 内 和 子	庵 原 敏 典	斉 藤 マ キ 子	土 屋 実 郎	今 村 千 年	泉 和 美	内 田 梢